県内4社など

無人飛行機用エンジン開発

環境配慮型、国が支援

県内製造業4社などによる無人飛行機用ジェットエンジンの共同開発が、経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業に採択された。研究開発費約1億円を国が負担する。部品加工の精度を高めることで既存製品より燃費や耐久性が向上、エンジン音を小さくした「環境配慮型」を目指す。

パイロットなしで飛行する無人飛行機は、海外で航空写真撮影や農薬散布などに使われている。有人機に比べてコスト低減が期待できるため、欧米を中心に市場拡大が見込まれるという。

共同研究体のメンバーは、航空部品製造のYSEC（新潟市西蒲区）と機械加工の小林製作所（同）、佐渡精密（佐渡市）、太陽電池などの製造装置を手掛けるジェイシーエム（胎内市）、新潟大学、産業技術総合研究所（茨城県）。

エンジンの大きさは直径約15センチ、長さ約40センチ。従来の400時間を上回る耐久性の実現を目標とする。切削や溶接、電子制御技術を結集し、9月末までに試作品を完成する。YSECの白木和範社長は「新潟県に航空機産業を起こす第一歩にしたい」と話した。

採択を支援した新潟市企業立地・ポートセールス課は「企業連携で商品を開発することで地域の技術力がアピールできる。重工業メーカーも関心を示しており、金属加工業の振興や企業立地につなげられるよう、PRに力を入れたい」とした。